

分子科学研究所アーカイブズの構築

木村 克美

IMS 名誉教授

1. 分子研・史料編纂室について

分子科学研究所（以下、分子研と省略）は、昭和 50 年(1975)4 月に全国大学共同利用機関として設立され、平成 17 年(2005)に創設三十周年を迎えた。その機会に、翌年（平成 18 年）、「史料編纂室」（いわゆるアーカイブズ室）が設けられた（分子研・南実験棟 202 号室および 209 号室。現在のメンバーは鈴木さとみ、南野 智、薬師久弥教授（室長）および筆者である。

分子研設立に至る経緯は長く、「分子科学」という名称が公式に使われてから分子研設立まで、実に十数年の歳月を要した。昭和 36 年にスタートした総合研究（文部省科学研究費補助金）のタイトルが「分子科学-分子の化学物理的研究」であった（長倉著「分子研前史」を参照）。

そこで、分子研史料編纂室の第一歩として、分子研創設に至る十数年にわたる長い歴史を物語る多数の資料や記録が失われないう、今のうちでできるだけ関連史料を収集し保存することが重要だと考え、アーカイブズ活動を進めている。

2. 史料の分類・目録作成・保管

これまで収集した史料を大別すると、次の三つに分類できる。

- 1) 学術会議の勧告以前の動向
- 2) 学術会議勧告から分子研準備室時代まで
- 3) 分子研準備室時代から創設十周年記念まで

長倉三郎先生（第 2 代所長）から提供された「長倉史料」の内訳は主に上記の分類の 1 および 2（準備室以前）である。井口洋夫先生（第 3 代所長）から提供された「井口史料」は主に上記の項目 3（準備室以降）

第1章 基盤機関アーカイブズの構築

である。これらの主な史料を年代順に挙げると以下のようである。

-
- 1) 昭和 37-38 年 分子科学・総合研究計画調書（文部省科学研究費補助）
 - 2) 昭和 38-40 年 化学研究将来計画委員会・議事録および化学系 6 研究所・
設立案（分子研を含む）、化学研究将来計画シンポジウム報告、
分子研の設立計画についての案
 - 3) 昭和 40 年 分子研（仮称）設立要望書および設立案
 - 4) 昭和 40-44 年 分子研小委員会の議事録（東大附置研としての案）
 - 5) 昭和 44-45 年 大学紛争で「大学附置研構想」は困難となった旨の報告
→ 「大学共同利用機関構想」への転換（分子研小委員）
 - 6) 昭和 45-48 年 「分子科学」特定研究の申請調書、中間報告、最終報告書
 - 7) 昭和 49 年 準備室作業部会の議事録と記録（土地、施設の図面など）
 - 8) 昭和 50 年 準備室（東京から岡崎）の引越の書類および評議員規則、
評議会規定、分子研要人員内訳、人事関係などの記録
 - 9) 昭和 51-55 年 分子研創設初期の記録、創設協力者会議、創設の目的・
要望・組織等の記録、発足から 2 年目にかけての報告、
日米協力事業、大学院教育協力、大学院問題懇談の記録など
-

その他、岡崎統合事務センターからは、分子研の「評議員会」、「運営協議委員会」、「運営連絡会議」、「学会等連絡会議」などの議事録を保管している。また、写真アルバム約 30 冊（分子研竣工、創設披露宴、十周年記念式典、評議会、一般公開など）を受け入れ、保管している。

さらに、「分子研サーキュラー」、「創設協力者会議議事録」、「分子科学研究会会報」、「分子科学若手グループ会報」、「分子科学若手の会-夏の学校」などの資料も保管している。これらは、次の分子研関係者から提供されている、すなわち、細谷治夫・お茶の水大・名誉教授、岩田末廣・分子研名誉教授、小谷野猪之助・姫路工大名誉教授（元分子研助教授）、中村宏樹氏（分子研所長）、吉原経太郎氏（分子研名誉教授）、および筆者・木村克美（分子研名誉教授）

3. 史料の目録作成および史料の保存

史料の目録作成は主にソフト ファイルメーカーPro を使って作成している。また、データ共有化のために国文学研究資料館 EAD 化ソフトも試みている。史料は文書保存箱に整理して保管している。長期保存のため最近では中性紙の保存箱も利用している。各史料は、通常の複写（紙コピー）、デジタル化（PDF）、さらに一部は長期保存のためのマイクロフィルム化も進めている。

4. 史料編纂室ホームページの作成

平成 21 年 12 月に、分子科学研究所史料編纂室のホームページを立ち上げた。現在、まだテスト公開なので、分子研所内に限定して公開している。今後、所外への公開も行っていく予定である。

史料編纂室に寄贈された史料は、ファイルメーカーPro によってデータベース化を行っているが、ホームページ上からの簡易検索・閲覧機能を実現するため、これらのデータベースを基に、以下の項目を抜き出した HTML 形式の史料リストファイルを作成する。

- | | | |
|--------------------|-------------|----------|
| 1) 史料番号(ID Number) | 2) 文書・史料名 | 3) 資料内容、 |
| 4) 機関情報 | 5) 資料作成者・機関 | 6) 所在情報、 |
| 7) 資料の形態 | 8) 性格情報 | 9) 作成年月日 |

この史料リストファイルには、史料に関する詳細な情報が含まれているので、インターネットエクスプローラー（IE）などのブラウザに標準装備されているページ内の検索機能（IE の場合「ctrl+F」）を使用することで、必要な史料を見つけ出すことができる。

さらにこのリストの ID Number と史料の電子化ファイル（PDF 形式）がリンクで結ばれるように、ID Number のリンクをクリックすることで、史料の PDF ファイルを閲覧できる機能を実現した。

5. おわりに

総研大のアーカイブズプロジェクトの一環として、種々の基盤共同利用機関のアーカイブズ室とのこれまでの交流は、分子研のアーカイブズ活動にとって大変に有難い。今後とも、ますます他機関のアーカイブズ室と連携を保ち、史料の収集・保管を進めながら、史料共有化などの作業も進めていきたいと考えている。最後に、本プロジェクト

第1章 基盤機関アーカイブズの構築

を通して総研大・平田光司教授および核融合研・松岡啓介教授はじめ、アーカイブズ室の方々からも当初から大変お世話になっており、また貴重なサポートを頂いたことを、この機会にあらためて感謝申し上げる次第である。